

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 雀宮南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	71人	国語B	71人
② 算数A	71人	算数B	71人
③ 理科	71人		

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮南小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

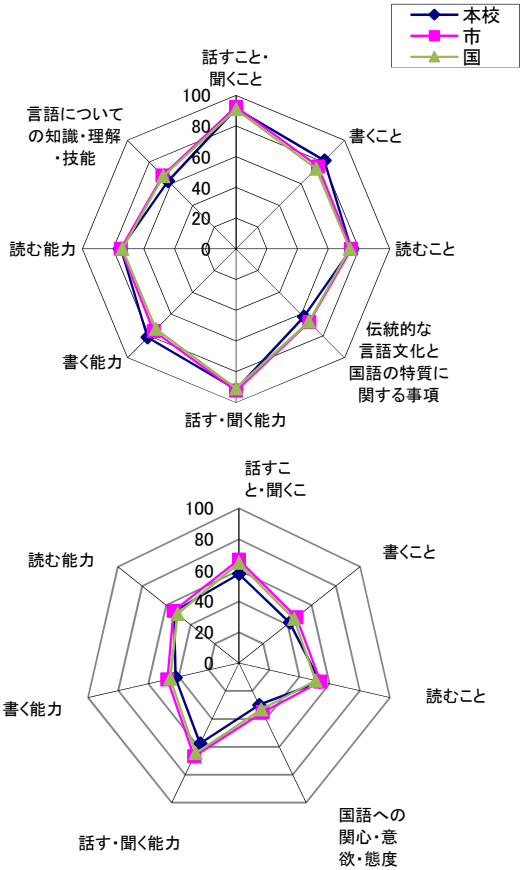
★本年度の国、市と本校の状況

【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	91.4	92.4	90.8
	書くこと	81.4	75.7	73.8
	読むこと	75.0	74.9	74.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	62.5	67.5	67.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	91.4	92.4	90.8
	書く能力	81.4	75.7	73.8
	読む能力	75.0	74.9	74.0
	言語についての知識・理解・技能	62.5	67.5	67.0

【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	57.6	66.8	64.6
	書くこと	42.0	47.4	45.6
	読むこと	53.6	54.0	50.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	30.0	35.2	33.2
	話す・聞く能力	57.6	66.8	64.6
	書く能力	42.0	47.4	45.6
	読む能力	53.6	54.0	50.8
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

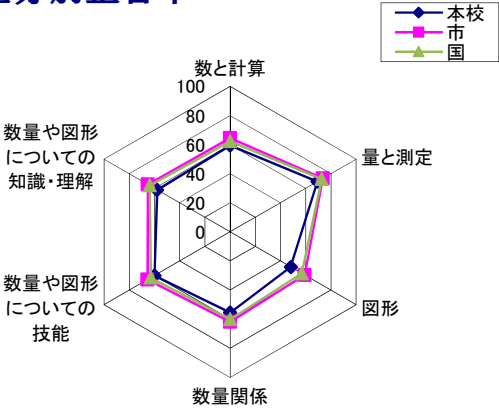
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、国語Aで全国・市ともに平均とほぼ同じ。国語Bでは、市の平均を9.2ポイント下回っている。 ○ 相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話すことができる。授業でペアやグループ学習での話し合い活動の機会を多く設けた成果だと考えられる。 ● 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめるところに課題が見られる。	・今後もペアやグループ学習での話し合い活動の機会を多く設け、相手や目的に応じて自分が伝えたいこと、相手の意図を捉えながら自分の意見と比べる活動を取り入れていく。 ・話し手の意図を意識しながらメモをとる活動を取り入れ、自分の考えを述べるような学習の展開を図る。
書くこと	平均正答率は、国語Aでは、全国・市の平均を5ポイント以上上回り、国語Bでは、市の平均を5.4ポイント下回っている。 ○ 自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考えることができる。物語を好んで読書する児童が多く、物語を書くときに、文章全体の構成を表にまとめてから書く機会を設けた成果だと考えられる。 ● 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くところに課題が見られる。	・今後も読書をする機会を多く取り入れ、感想文や物語文を書くときの文章全体の構成を考えながら文章を書く機会を設ける。 ・授業後の振り返りやまとめ等、80～100字での短作文を書く機会を設け、内容の中心を明確に書く活動を継続的にしていく。
読むこと	平均正答率は、国語A・Bともに全国・市の平均とほぼ同じである。 ○ 目的に応じて必要な情報を捉えたり、登場人物の心情について、情景描写を基に考えたりすることができる。 ● 目的に応じて、複数の文章を選んだり、その文章から何が読み取れるかを選んだりするところに課題が見られる。	・物語文の学習では、色・音・形など細かい描写にも目を向け、場面の情景や登場人物の心情を豊かに想像できるように学習に取り組んでいく。 ・ペアやグループ学習を通して、筆者の言いたいことや文章から読み取れたこと等を話し合い、自分の意見を友達の意見と比べながらまとめる活動をしていく。 ・今まで通り読書を推奨し、朝の読書や読み聞かせ等の機会を通して読書活動の充実を図る。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、全国・市の平均をおよそ5ポイント下回った。 ● 文の中における主語と述語の関係などに注意して分を正しく書くことに課題が見られる。 ● 学年配当漢字を書くことに個人差があり、十分に理解している児童もいるが、似ている漢字で迷う等、定着が図れていない児童が見られる。	・漢字を正確に読み書きできるようにするために、ドリル学習や家庭学習を継続していく。 ・朝の学習の時間を活用し、ミニテストや短作文などで既習漢字の習熟を図る。

宇都宮市立雀宮南小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

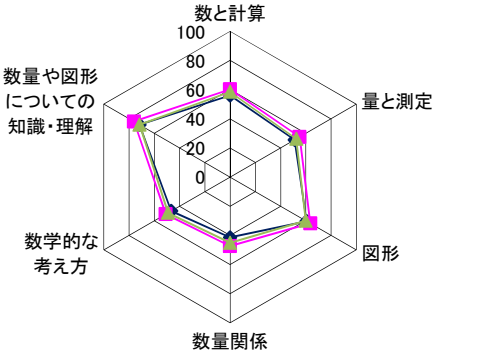
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	59.4	64.5	62.3
	量と測定	69.3	73.6	72.7
	図形	48.1	59.1	56.9
	数量関係	55.4	61.8	60.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	60.0	65.5	63.0
	数量や図形についての知識・理解	57.9	65.3	63.8



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	56.1	60.2	58.4
	量と測定	51.1	55.0	52.4
	図形	60.6	63.5	59.9
	数量関係	41.4	47.3	45.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	46.6	51.0	49.2
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	71.8	76.2	71.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

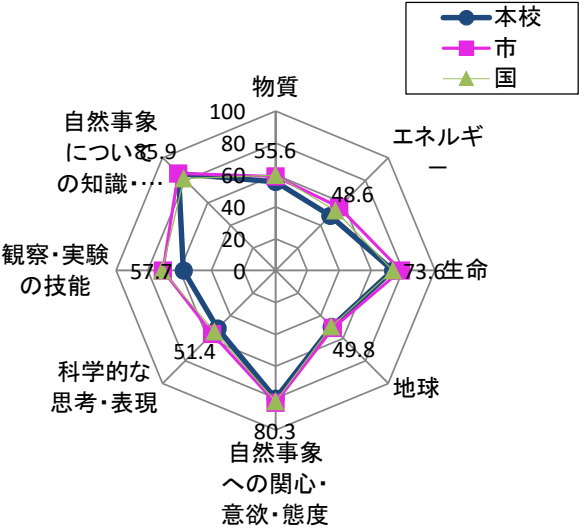
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、算数Aで5.1ポイント、算数Bでは2.9ポイント下回った。 ● 計算はできるが、除法の意味が理解できていない。 ● 十進位取り記数法で表された数の大小について理解が不十分である。	・分数や小数の計算の仕方の復習を繰り返して行い、定着を図っていく。 ・立式する際に、簡単な数字を使ってイメージを持たせられるように授業の展開を工夫するとともに個別に指導していく。
量と測定	平均正答率は、算数A・Bともに市の平均をおよそ4ポイント下回っている。 ○ 180度の角の大きさについては理解している。 ● 180度よりも大きな角の大きさを求めることは、理解がやや不十分であった。	・単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味が理解できていないので、問題の意味を捉え、図や数直線を活用して立式できるようにしていく。 ・分度器のメモリの読み方は理解しているので、180度よりも大きな角を求める問題演習を繰り返し行い、定着を図る。
図形	平均正答率は、算数Aで8ポイント下回り、算数Bでは全国・市ともにほぼ同じであった。 ○ 空間の中にあるものの位置を表現することができた。普段から、パターブロックや図形を操作する活動を取り入れてきた成果だと考えられる。 ● 円の学習が定着していない。円周率の意味や円の直径の長さや円周の長さの関係が理解できていなかった。	・円の学習が定着していないので、直径の長さや円周の長さの関係、円周率の意味についても復習をし、計算ドリルやプリント等で問題演習を繰り返し行い定着を図る。
数量関係	平均正答率は、算数Aは3ポイント、算数Bは4ポイント、市の平均を下回っている。 ○ 除法で表すことができる二つの数量関係を理解することができた。 ● 折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることに課題が見られる。	・各種グラフから割合や変化の特徴を読み取ることができるよう復習をし、問題演習を繰り返し行うことで定着を図る。

宇都宮市立雀宮南小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物質	55.6	59.0	59.8
	エネルギー	48.6	56.4	53.1
	生命	73.6	78.6	73.6
	地球	49.8	50.9	49.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	80.3	82.9	82.1
	科学的な思考・表現	51.4	56.1	54.1
	観察・実験の技能	57.7	70.6	71.1
	自然事象についての知識・理解	85.9	86.2	81.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質	平均正答率は市の平均を3.4ポイント、国の平均を4.2ポイント下回った。 ○食塩を水に溶かしたときの全体の重さを理解することができた。 ●ろ過の適切な操作方法について、市・国ともに10ポイント以上下回っており、課題が見られる。	器具の使い方について課題が見られたことから、各器具の使い方をよく確認したうえで実験を行う。また、一度だけでなく折を見て反復して使い方を練習するようにする。
エネルギー	平均正答率は市の平均を5.9ポイント、国の平均を4.5ポイント下回った。 ○太陽の1日の位置の変化と、光電池に生じる電流の変化を関連付けて考えることができた。 ●回路を流れる電流について、予想や結果から考える問に対して、市・国ともに20ポイント近く下回っており、課題が見られる。	考察を書く際に、「実験結果から」何が言えるのかに焦点を当てて考えさせることで、それぞれの実験の意図を明確にし、自分の言葉で考えを書くように指導する。
生命	平均正答率は市の平均を3.3ポイント下回った。 ○骨と骨の間のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解することができた。 ●人の腕が曲がる仕組みについての問題で、市・国と比べると10ポイント前後下回っており、課題が見られる。	知識を問う問題は正答率が高かったことから、活用する力を高めるために、応用問題を反復して解いたり、予想や考察の際に理由を明確にして考えさせたりする。
地球	平均正答率は市・国と同程度だった。 ○天気と蒸発による水位の変化を関連付けて考えることができた。 ●土地の変化について、それぞれの予想を基に結果を予想することに対して課題が見られる。	実験を行う際に、予想と結果の関連性に見通しをもたせてから取り組むように指導する。

宇都宮市立雀宮南小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれると思いますか」という質問に対して、全国肯定回答率を7.6ポイント上回っている。

○「理科が好き」と回答した児童は66.2%で、全国の肯定回答率を13.6ポイント上回っていた。また、「算数が好き」と回答した児童は38.0%で、4.1ポイント上回った。本校の児童は、理科・算数科が好きという傾向にある。

○「理科の授業の内容がよくわかる」と回答した児童が60.6%で、全国を4.7ポイント上回った。

○「自分には、よいところがあると思いますか」の問いに対して、56.3%の児童が「当てはまる」と回答していて、全国平均を15.1ポイント上回っている。

○「将来の夢や目標をもっているか」の問いに、71.8%の児童が「ある」と回答しており、全国平均を上回っている。自分の描く目標や夢をしっかりもって学校生活を送っている児童が多いことがわかった。

●家庭学習の時間が少なく、テレビやDVDを見る時間が全国平均より長い傾向が見られる。

●「授業の中で発表の仕方を工夫していたと思うか」の質問に対しての肯定回答率は56.3%で、全国平均を4.7ポイント下回っている。今後は、発表の仕方を改めて確認するとともに、発表に対して積極性をもてるよう指導していきたい。

宇都宮市立雀宮南小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の考えを深め、文章にまとめる指導の充実	条件にあった内容の短作文(100文字程度)に継続的に取り組ませる。また、授業の中で自分の考えを書く活動を意図的に取り組んでいる。	記述式の問題の正答率が、国語で県の平均を4ポイント、全国の平均を3.2ポイント下回り、算数で県の平均を1.8ポイント、全国の平均を0.6ポイント上回っている。 国語の「書くこと」の項目では、県の平均を8.6ポイント、全国の平均を7.6ポイント上回っている。
言語活動の充実	ペアやグループによる話し合い活動を授業に位置付けて展開を図るようにしている。また、教科や領域の単元の特質を生かした言語活動を取り入れて実践化を図っている。	「話すこと聞くこと」の項目では、国語Aで県の平均を1.4ポイント、全国の平均を0.8ポイント上回り、国語Bで県の平均を6.1ポイント、全国の平均を7ポイント下回っている。「友達と話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広めたりできる」の肯定回答が、県の平均を3.2ポイント、全国で4ポイント上回っている。
活動のめあての明確化と振り返りの充実	「何ができるようになるか」を明確にして授業の構想を立て、児童が見通しをもって学習に取り組めるように実践化を図るとともに、学びを実感できるような振り返りを行っている。	「算数の勉強は好きですか」の肯定回答は、県の平均を1.9ポイント、全国の平均を5ポイント上回っているが、「算数の授業はの内容はよく分かりますか」の肯定回答は、県の平均を7.8ポイント、全国の平均を6ポイント下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
算数の「図形」「小数の除法」「グラフ」についての問題で正答率が低い傾向にあった。	課題のある問題及び関連する学習内容について、系統的に捉え、指導の重点化を図る。	年間指導計画に朱書きし、指導の重点化を図り、学習の終了時に、課題のあった問題を解かせる。「学びロング」の時間を年13回設け、つまずきの状況に応じた指導をする。